

議題 1. 2015 年度事業報告

I. 総務会 総務会

1. 委員

担当理事 河合 富士美（専務理事・聖路加）、児玉 闕（東邦大医）、
諏訪部 直子（杏大医）、坪内 政義（個人）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第 1 回 2015 年 4 月 10 日
第 2 回 2015 年 6 月 29 日
第 3 回 2015 年 10 月 16 日
第 4 回 2015 年 12 月 17 日
第 5 回 2016 年 2 月 5 日

- 2) 第 86 回総会を 2015 年 5 月 28 日に日本科学未来館にて開催した。
- 3) 同分科会を 2015 年 5 月 29 日に日本科学未来館にて開催した。
- 4) 第 87 回（2016 年度）総会及び第 1 回学術集会を 2016 年 5 月 26 日（木）～27 日（金）にホテルアバローム紀の国（和歌山市）にて開催することとし、実行委員会（委員長:坪内理事）を立ち上げた。
- 5) 第 88 回（2017 年度）総会の開催を東京都に内定した。
- 6) 2015 年度地区会事務局連絡会議を 2015 年 12 月 4 日に開催した。
- 7) 2015 年度委員長会議を 2016 年 1 月 28 日に開催した。
- 8) 委員会統合と事務局への移管も含め、委員会業務を精査した。
- 9) 委員会等におけるネット会議につき検討し、スカイプ等に対応できるノートパソコン等を事務局に整備した。
- 10) ファイルサーバによる文書管理システムにつき検討し、次年度試験運用をすることとした。
- 11) 分担保存に関する 2015 年度総会の決定に基づき、医学雑誌保存について国立国会図書館と相談した。
- 12) 日本医療研究開発機構を訪問し、情報環境整備につき懇談を行った。
- 13) 次期重点事業目標につき検討した。
- 14) 中国・四国地区会に理事と事務局員を派遣した。（2015 年 11 月 5～6 日）
- 15) 理事会及び各委員会活動に関する検討、意見調整を行った。
- 16) その他、担当委員会があるものは、当該委員会の事業報告を参照のこと。
- 17) 事務局業務をサポートし、事務的な判断を行った。また、現在欠員である事務局長の雇用につき検討した。

3. 事業別報告

1) 医書電子化検討ワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 児玉 闕（東邦大医）
委員長 児玉 闕（東邦大医）
委員 河合 富士美（聖路加）、今野 穂（札医大）、

角谷 永（慶大医、2016年2月から）、田口 宣行（埼玉医大）、
吉岡 文（浜医大）

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

①委員会の開催

第1回 2015年6月26日
第2回 2015年9月18日
第3回 2015年12月10日
第4回 2016年2月24日

(3) 日本医書出版協会(JMPA)との意見交換

①JMPA との間で、国内医書電子化に関する意見交換を4度行った。JMPA からは提供モデルが複数案示され、それぞれについてディスカッションした。合わせて、医書.jp の動向について、報告を受けた。

②図書館側の出版物に対する考えや現状を把握したいという目的で、JMPA から JMLA 会員へ向けたアンケートの実施希望があったので、WG メンバーも加わり、アンケート項目について協議した。10月にアンケートを開始し、91館から回答を得た。

③国内医書利用実態調査

国内医書電子化推進を図るための基礎データとして、JMLA 会員に向けて国内医書利用実態調査を実施した。69館（正会員 A:66館、正会員 B:3館）から回答があり、集計作業を行った。

(4) その他の報告事項

①井上委員（浜医大）に人事異動があったため、吉岡委員に交代した。

(5) 今後の課題

①JMPA との国内医書電子化に関する意見交換の継続
②国内医書利用実態調査の報告

4. その他の実績

1) 会員の動向

入会

正会員 A

東京医療保健大学図書館

正会員 B

埼玉県立がんセンター図書館

正会員個人 10名

退会

正会員 B

日本歯科医師会図書館

正会員個人 7名

維持会員 1機関（団体）

2016年3月31日現在の会員数

正会員 A 98機関

正会員 B 45機関

正会員個人 102名

協力会員 2機関

維持会員 17 機関 (団体)

維持会員 2 名 (個人)

2) 寄付 (助成金)

株式会社紀伊國屋書店

丸善株式会社

3) その他

資料の共同購入

図書館年鑑 30 冊 435,000 円

インセットテープ 24、25 回合計 107,000 本 104,600 円

NLM 複写依頼 2,703 件 4,661,600 円

KMLA への文献複写提供実績 8 件

Ⅱ. 企画・調査 企画・調査委員会

1. 委員

担当理事 山田 久夫 (個人)

委員長 青木 裕子 (天理病)

委員 曾田 昌弘 (関医大)、田中 律子 (滋慶院大)、土佐 智義 (個人)、

枚田 眞紀子 (京府医大)

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第 1 回 2015 年 7 月 23 日

第 2 回 2015 年 12 月 9 日

2) 第 86 次会員統計の発行

スケジュールのとおり実施し、10 月 5 日に完成版を本会ホームページに掲載した。なお、本年度より簡易製本版の販売を中止した。

3) 第 66 回 (2015 年度) 重複雑誌交換事業の実施

アンケート調査結果と意見を反映して、専用メールを利用した会員相互による重複交換は継続したが、随時交換ではなく、統一した提供雑誌データ送付期間と交換期間を別に設定して、第 1 回交換 (データ送付期間: 8 月 10 日~28 日、交換期間: 9 月 14 日~10 月 2 日) と第 2 回交換 (データ送付期間: 1 月 18 日~29 日、交換期間: 2 月 15 日~3 月 4 日) に分けて実施した。提出冊数 40,496 冊、譲渡冊数は 3,826 冊であった。また、実績報告書を集計して、機関誌と本会ホームページに掲載した。

4) 「要覧 2015」の発行

2016 年度からの教育・研究制度の改訂に先立って、2015 年度に新研修制度を実施するためのワーキンググループが稼働するため、今年度は新旧 2 規程を併記した。また、改訂に伴い別表の 2016 年度以降は削除した。「医学図書館員のための倫理綱領」及び「本会作成文書類の表記基準」を新たに掲載した。原稿の入手に手間取ったため、例年よりも遅い 11 月 25 日に発行した。

3. その他の報告事項

1) アンケート調査アーカイブ

2015 年度のアンケート調査依頼は 2 件あり、その内容と結果を、本会ホームページに掲

載した。

2) 委員会の解散関連

- (1) 各事業の次期ワーキンググループへの引き継ぎマニュアルを作成した。
- (2) 業務の移管に当たり、各事業の問題点と要望等をまとめ、理事会に報告した。

Ⅲ. 機関誌「医学図書館」編集 機関誌「医学図書館」編集委員会

1. 委員

- 担当理事 平 紀子（個人）、北川 正路（慈恵大）
委員長 大谷 裕（東邦大医）
委員 浅野 泉（旭医大）、大野 圭子（個人）、笹谷 裕子（杏大医）、
菅 修一（個人）、高畑 亜紗美（東医大）、百留 悦子（埼玉医大）、
藤村 三枝（滋医大）、若田部 純子（医中誌）
協力委員 田邊 千雪（北大）、菅野 久美子（秋大医）、相澤 まゆみ（都済生中央）
伊東 洋輔（信大医）、原 紀子（個人）（9月まで）、
吉岡 文（浜医大）（10月から）、山下 ユミ（京府医大）、
佐々木 奈三江（徳大蔵）、田尻 千浪（産医大）

2. 事業報告と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

- 第1回 2015年6月18日
第2回 2015年9月15日
第3回 2015年12月11日
第4回 2016年3月15日

2) 「医学図書館」（年4号）の刊行

(1) 各号の定期刊行を維持する。

- ① 「医学図書館」（62巻1号）2015.3.20 発行
特集：蔵書点検・第21回医学図書館員基礎研修会
- ② 「医学図書館」（62巻2号）2015.6.20 発行
特集：第21回医学図書館研究会・継続教育コース
- ③ 「医学図書館」（62巻3号）2015.9.20 発行
- ④ 「医学図書館」（62巻4号）2015.12.20 発行
- ⑤ 「医学図書館」（63巻1号）2016.3.20 発行
特集：医学図書館にとっての医学史資料・第22回医学図書館員基礎研修会

(2) 編集体制の安定化を進める。

編集協力委員の補充を図った。

(3) 本誌電子化についての検討

J-STAGE の新サービスである J-STAGE Lite への搭載の可能性について調査する予定だったが、J-STAGE Lite の利用受付が開始されず、次年度以降の継続課題となった。

3. 今後の課題

1) 編集協力委員の委嘱手続きの確立

編集協力委員の選定は現在各地区会に一任しているが、今後は各地区会から選出された

編集協力委員を JMLA から委嘱する手続きをとることとする。

IV. 出版 出版委員会

1. 委員

担当理事 平 紀子（個人）、北川 正路（慈恵大）
委員長 白土 裕子（医中誌）
委員 原 千延（国医情）、吉新 裕昭（獨協医大）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 2015年6月18日
第2回 2015年9月15日
第3回 2015年12月3日
第4回 2016年3月15日

2) 書籍の出版など

(1) 「やってみよう図書館での医療・健康情報サービス」改訂版の出版

2016年度に改訂版を出版することとし、監修・編集を担当する医療・健康情報ワーキンググループと出版に向けて準備を進めた。

(2) 新「NLM分類 日本語版」出版の準備

NLMC 日本語版ワーキンググループと連携し、2016年度発行（場合によっては2017年度発行）に向けて準備を進めた。

(3) 「わかりやすい医中誌 Web 検索ガイド 検索事例付き」の増刷あるいは改訂の検討

2015年度は在庫状況より改訂版の出版をしないこととした。2016年度も在庫状況を把握して、他書籍の出版状況を考慮しながら、必要に応じて改訂版の出版の準備を開始することとした。

(4) 「図解 PubMed の使い方 インターネットで医学文献を探す」の増刷あるいは改訂の検討

在庫が少なくなったため、著者とやり取りをして2016年度に改訂版を出版することを確認した。

3) 「相互利用便覧」Web版のデータ確認

2015年7月に主任メールにて各会員館の記載内容に変更がないかを確認し、変更がある館についてはホームページ担当ワーキンググループに変更データを送付して差し替え依頼をした。

4) 新出版物の企画

一般市民を対象とした健康情報検索ガイドなど、今後の新出版物の企画について検討した。

3. その他の報告事項

1) 第3回の一部で、機関誌「医学図書館」編集委員会との合同委員会を開催した。。主に今後の出版企画について、編集委員より多彩な意見を聞くことができた。

4. 今後の課題

1) 2016年度発行の書籍については、該当のワーキンググループ/著者と連携して発行を終

了する。

- 2) 2016年度に増刷・改訂予定となっていない書籍についても、在庫状況や内容を考慮して今後の増刷・改訂を計画していく。

V. 広報 広報委員会

1. 委員

担当理事 平 紀子（個人）、北川 正路（慈恵大）

委員長 平 紀子（個人）

委員 川崎 かおる（岩医大）

ホームページ担当ワーキンググループ

藤沢 靖子（杏大医）（グループ長）、田邊 千雪（北大）、

西戸 雅博（福島医大）、森田 奈津子（慈恵大）、原 猛（長野看大）、

森田 ゆかり（藤田学園医）、寺升 夕希（滋医大）、犬飼 恵美子（岡大鹿）、

志波原 智美（長大医）、鷹野 祐子（都医学研）、及川 はるみ（聖路加）

2. 事業報告と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 2015年10月7日

第2回 2015年11月12日

第3回 2016年2月12日

第1回 ホームページ担当ワーキンググループ委員会 2016年2月12日

2) 本会の諸活動に関する会員間の意見交換、会員外への宣伝活動の促進

JMLAのロゴと認定資格のロゴの商標登録を終了した。ロゴ運用規程を定め、会員にロゴ作成経過と使用方法について知らせた。

3) 本会案内パンフレットの更新

第87回総会（2016年度）までに更新版を完成するように準備を進めた。

4) 本会ホームページの管理

ホームページ担当ワーキンググループ委員会を開催した。

2016年度からホームページ更新作業は中央事務局の担当となるので、現在のワーキンググループの業務内容引継ぎを進めた。

VI. 雑誌 雑誌委員会

1. 委員

担当理事 児玉 関（東邦大医）

委員長 富田 麻子（日医大中）

委員 江幡 歌奈子（東邦大医）、角家 永（慶大医）、川島 恵里香（東医大）、

鷹野 祐子（都医学研）、田口 宣行（埼玉医大）、宮本 高行（阪医大）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

臨時 2015年5月1日

第1回 2015年6月19日

第2回 2015年9月1日

第3回 2016年1月13日

2) コンソーシアム提案交渉

JPLA 雑誌問題検討委員会と合同で、出版元・代理店と 2016 年契約に向けたコンソーシアム提案の交渉をのべ 21 回、2017 年契約に向けた交渉をのべ 4 回行った。

3) コンソーシアム提案の充実

・病院向け提案の充実に向け、病院部会の満岡幹事と病院向け提案について意見交換をした。既存の病院向け提案を、実際に契約があるものとなないものに分け、それぞれの満足度を確認することにした。この確認作業を契機に、OvidMD(ウォルターズ・クルワー)が新規提案された。

・Karger から原価値下げ、Wiley からコレクションのダウンサイジングなど、図書館の苦しい状況に配慮した提案をもらうことができた。

4) コンソーシアム説明会の開催

JPLA 雑誌問題検討委員会と合同で、コンソーシアム説明会を京都と東京で開催した。京都説明会では、近畿地区会にお手伝いいただいた。

(1) 京都会場：2015年8月27日(木) 京都テルサ

参加者：37名(JMLA19名、JPLA18名)

参加企業：19社(展示19社、プレゼン17社)

※実行委員7名(JMLA5名、JPLA2名)

(2) 東京会場：2015年9月2日(水) マイナビビルーム

参加者：100名(JMLA64名、JPLA36名)

参加企業：26社(展示26社、プレゼン22社)

※実行委員10名(JMLA7名、JPLA3名)

5) コンソーシアム交渉の負担軽減

前年度同様、数社の交渉を同じ日にまとめたが、交渉の日数は前年度と同様、22日(2016年契約:18日、2017年契約:4日)となった。2015年は2社が提案撤退したが、値下げなどについて粘り強い交渉を行って時間がかかったため、最終的な交渉日数は前年と同じになった。

6) 他コンソーシアムとの連携

大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)とは、AAAS/Scienceについて合同の交渉を行った。

7) 総会オープンフォーラムでの発表

5月28日のJMLA総会オープンフォーラムで、富田委員長、田口委員が雑誌委員会の活動について紹介した。

8) 分担購入の見直し

雑誌分担購入事業の中止を理事会に提案し、5月28日のJMLA総会で承認された。

3. その他の報告事項

1) 雑誌分担保存に関するアンケート結果の報告書作成に協力した。

2) コンソーシアム提案などを公開するWebサイトの管理方法の見直しを行った。

3) コンソーシアム説明会に関するアンケート調査を行った。結果は『薬学図書館』に掲載された。

4) コンソーシアム提案に関するアンケート調査を行った。

5) コンソーシアム提案成立件数の調査を行った。

- 6) 南野委員(慶大医)異動のため、角家委員に交代した。
- 7) リバースチャージに関して、コンソーシアム説明会での事例紹介やホームページでの各社対応状況の発信など、会員向けに情報提供を行った。
- 8) 担当理事が中国・四国地区会総会に出席し、JMLA/JPLA コンソーシアムについての意見交換をした。

4. 今後の課題

- 1) 新たなコンソーシアム提案の獲得。
- 2) 他コンソーシアム提案との価格差是正。

Ⅶ. 教育・研究 教育・研究委員会

1. 委員

- 担当理事 酒井 由紀子 (個人)
 委員長 加藤 砂織 (東女医大)
 副委員長 西村 志保 (日医大中)
 委員 大瀬戸 貴己 (奈医大)、佐藤 正恵 (個人)、佐山 暁子 (聖路加)、
 三谷 三恵子 (慶大医)

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

- 第1回 2015年7月29日
 第2回 2015年10月30日
 第3回 2015年12月25日
 第4回 2016年3月8日

2) 第22回医学図書館員基礎研修会 (関東地区)

- 日程：2015年8月5日(水)～7日(金)
 会場：明海大学 浦安キャンパス
 テーマ：「医学図書館員って何をするの？基礎のキソから始めよう！」
 受講者数：71名 (部分参加含：JMLA48名、JPLA2名、その他21名)

3) 第22回医学図書館研究会・継続教育コース (近畿地区)

- 日程：2015年11月18日(水)～20日(金)
 会場：神戸大学
 テーマ：「"使える"図書館をアピールする」
 研究会 演題 11件
 継続教育コース

- テーマ1 「文献検索講習中級」
 テーマ2 「"使える"図書館をめざそう」

- 参加者数：68名 (内訳：JMLA50名、その他18名)
 継続教育コース I 51名、II 42名

4) 第17回図書館総合展フォーラム (JMLA/JPLA 共催)

- 日程：2015年11月11日(水)
 会場：パシフィコ横浜 第3会場 (シアター形式 200席)
 テーマ：「グローバルスタンダードと図書館の接点：医学教育の国際化」

参加者数：108名（内訳：JMLA 50名、JPLA 9名、その他 49名）

5) 助成募集

2016年度研究助成、2015年度海外研修助成の募集をおこなったが、ともに応募がなかった。海外からの来賓、講師等招請助成については、規程案を提出済みである。

6) MLA2015年次大会派遣研修

2015年5月15日～20日 オースティンにて、1名派遣し、無事終了した。成果については、第86回総会会期中のMLAミニキャンペーンにおいて、展示を行った。

7) 基礎研修会事後レポート審査

提出されたレポートを審査し、全件について実行委員会を通じてレポート評価証明書を発行した。

8) 第1回JMLAコア研修準備

ワーキンググループメンバーを募集した。2名の応募があり、担当委員2名を加えた4名で、2016年夏の開催に向けて準備にあたっている。

ワーキンググループ会議

第1回 2015年12月25日

第2回 2016年3月8日

9) 第1回JMLA学術集会準備

研究会、CEコースの企画をおこなった。演題募集をおこない、プログラムが確定した。第87回総会の翌日に同会場で開催するため、韓国医学図書館協議会（KMLA）へ国際交流委員会を通じて発表者の派遣を要請した。

10) MLAの交換留学プログラム International Visiting Health Information Professionals Program (I-VIP)派遣者公募の検討

MLAの当該要綱により、応募者に対する支援を行うのが適切であることを確認した。支援の方法を検討した。

3. その他の報告事項

- 1) MLA次大会派遣研修事業は、2016年度派遣分より国際交流委員会が担当する。
- 2) 2016年度秋の継続教育コースは企画しないこととした。
- 3) 「特定非営利活動法人日本医学図書館協会および日本薬学図書館協議会における教育研修事業提携に関する申し合わせ」（2008年8月20日）および「特定非営利活動法人日本医学図書館協会（JMLA）/日本薬学図書館協議会（JPLA）の共催に際しての申し合わせ事項（2011年10月21日）の存在を確認した。また、前者の申し合わせにもとづいて、JMLAが新研修制度へ移行してもJPLAとの事業提携の継続に問題ないことをJMLA/JPLAの両担当理事の間で確認した。
- 4) 研究助成費及び海外研修助成費給付規程の見直しについては、奨学基金の支出に関する理事会での方針決定後に実施する。

4. 今後の課題

- 1) 学術集会の抄録集は、第1回については総会資料に含まれる。第2回以降は単独発行となり、ISSN取得が必要である。
- 2) I-VIPについて、派遣者の支援を行う。
- 3) 各地区会等が行う継続教育事業のJMLA-CEへの登録制度を確立する。
- 4) 学術集会ワーキンググループの募集を検討する。
- 5) 新研修制度への移行に伴い、会員および関係団体へ新研修制度の具体的な説明や案内を行う。

Ⅷ. 医療・健康情報

医療・健康情報委員会

1. 委員

担当理事 磯野 威（個人）

委員長 市川 美智子（愛医大）

委員 岡田 光世（東邦大医）、西 さやか（東医大）、野中 沙矢香（杏大医）

医療・健康情報ワーキンググループ

グループ長 渡邊 基史（個人）

委員 関 和美（個人）、高橋 宏美（相模原市役所）、塚田 薫代（個人）、
原 紀子（個人）、舟田 彰（個人）、柚木 聖（個人）

からだところの情報センターワーキンググループ

グループ長 磯野 威（個人）

委員 阿部 信一（慈恵大）、及川 はるみ（聖路加）、成田 俊行（個人）、
舟田 彰（個人）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 2015年6月17日

第2回 2015年9月8日

第3回 2016年2月29日

医療・健康情報ワーキンググループ会議

メールで随時、協議・報告を行った。

からだところの情報センターワーキンググループ会議

第1回 2015年4月23日

第2回 2015年6月15日

第3回 2015年9月4日

第4回 2015年11月2日

第5回 2016年1月15日

第6回 2016年3月2日

2) 第2回医療・健康情報サービス研修会

開催日：2015年11月24日（火）～25日（水）

会場：日本図書館協会研修室

形式：日本図書館協会との協力開催（協賛）

プログラムの検討及び研修会の運用業務をJLA健康情報委員会と分担した。

参加者：31名（機関会員6、個人会員4、JLA会員14、その他7）

評価：参加者アンケートによる満足度は、4点満点のうち3.45点

第2回医療・健康情報研修会検討会議を8/31と11/11に実施。

3) 講師育成研修プログラムの構築

(1) 「医療・健康情報サービス研修会の進め方」と、それに準拠した「スライドのひな形」を作成し、委員会ホームページで公開した（会員限定）。非会員から6件の利用申請があった。作業は医療・健康情報ワーキンググループが担当した。

(2) 第2回医療・健康情報サービス研修会で、「進め方」の使用方法等について説明し、職場に戻ってからの研修会実施および使用後の感想をフィードバックするよう呼びかけた。

(3) 第1回医療・健康情報サービス研修会の受講者から第2回医療・健康情報サービス

研修会の講師を選定し「進め方」の試用およびフィードバックを求めた。

4) 『やってみよう図書館での医療・健康情報サービス』第3版の準備

内容の見直しと加筆修正の作業を、医療・健康情報ワーキンググループと合同で行った。2016年度の出版に向け、出版委員会と調整を開始した。

5) からだとこころの情報センター

(1) 第86会総会オープンフォーラム2を実施。改修案の報告を行った。

(2) 2016年度全面改修に向け「スケジュール」の検討を進めた。

(3) 「からだとこころの情報センター」Webサイト基本仕様案を作成した。

(4) 本会の特色を活かせるコンテンツの検討を進めた。

(5) 「医療健康情報サービス拠点マップ(仮称)」作成のための、パイロット調査(二次医療圏東京都中心部)を行った。

(6) 「医療健康情報サービス拠点マップ(仮称)」掲載候補として、「会員統計」に基づき、会員(A、B)に一般への公開状況の確認作業を依頼した。

3. 今後の課題

1) 各地区会における協力体制の構築

研修会講師を担当できる人物や相談窓口となる機関を定めることにより、図書館支援および「からだとこころの情報センター」の運用が前進すると考えられる。

2) 医療・健康情報サービス実施館の把握と情報公開

様々な図書館が様々なサービスを提供している。それらを把握する仕組みと、一覧できる環境を整備し、今後の活動に役立てたい。

IX. 認定資格運営

認定資格運営委員会

1. 委員

担当理事 酒井 由紀子(個人)

委員長 城山 泰彦(順大)

委員 阿部 潤也(東歯大)、小林 晴子(愛医大)、永田 治樹(立教大学)、
山崎 むつみ(静岡がん)、山下 ユミ(京府医大)

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 2015年7月8日

第2回 2015年8月28日

第3回 2015年12月11日

第4回 2016年2月26日

2) 申請募集と認定審査

(1) 第24回募集 (2015年7月受付、9月認定)

審査件数: 25

認定件数: 25 (基礎14、中級2[新規2]、上級9[新規7])

(2) 第25回募集 (2016年1月受付、3月認定)

審査件数: 31

認定件数: 27 (基礎23、中級2[新規2]、上級2[新規2])

(3) 資格取得者の現存数

第 25 回募集までで 398 名

(基礎 321 名、中級 21 名、上級 56 名)

3) 新認定制度への対応

担当理事から認定制度と教育プログラムの方針案等について逐次報告を受けており、委員会として情報を共有している。「専門職能力開発プログラム最終報告書(提案)」と「医学図書館員のための倫理綱領」に基づき、2017 年 1 月の第 27 回募集からの認定資格制度改正を視野に入れた検討を進めている。

また認定資格のウェブサイト、「2017 年からの認定資格についての Q&A」を掲載した。現行制度から新認定制度により変更となる点について 10 の Q&A を記載し、申請者が具体的に変更点をイメージできるようにした。

4) イメージロゴの商標登録

2013 年 12 月に認定資格イメージロゴを公募し、採用作品を決定した。2015 年 7 月に商標登録が完了し、2015 年 7 月 31 日から 10 年間有効である。

5) プロモーショングッズの製作

認定資格イメージロゴを活用して、認定者が資格をアピールできるような認定バッジを製作している。2016 年 5 月の第 87 回総会で対象者に配布する予定で製作を進めている。

6) 業務分掌と年間スケジュールの共有

認定資格運営委員会と JMLA 中央事務局との業務分掌の共有について、適宜検討を進めている。申請者からの問い合わせは、中央事務局が窓口となり、認定資格運営委員会が回答する。定型的な質問は、従来通り JMLA 中央事務局で回答する。

7) 教育・研究、認定資格運営委員会との連携推進

(1) 研修プログラムにおける認定資格要件やポイント数確認など、教育・研究委員会、研究会実行委員会、担当理事との調整は定例化している。

(2) 第 22 回医学図書館員基礎研修会実行委員会の提案に応じ、講義 6「日本医学図書館協会の活動紹介」の中で、認定資格に関する講義を行った。阿部委員が担当。(2015 年 8 月 7 日)

8) 広報の整備

(1) JMLA 主催の研修機会について、受講時間数と認定ポイントがわかるよう、認定資格ウェブサイト「JMLA 研修時間数一覧」を掲載している。ポイント対象となる過去 5 年に、JMLA が主催した研修機会を掲載している。

(2) 今後の募集予定やポイント対象期間などがわかるように、第 26 回募集までの「今後のスケジュール」を更新した。

9) 申請と審査の仕組みの整備

(1) 過去の審査事例に基づいた事例の整理について、検討を進めている。

(2) JMLA 主催研修会の参加者や、部分参加者が得られるポイント数の算出方法について、適宜確認を行った。

(3) 審査関係書類について、永年保存とする審査結果以外の資料について、一定期間を経過した審査関係資料の廃棄作業を行った。年末前後の委員会で、廃棄作業を継続する。

4. 今後の課題

1) 申請促進のための広報強化は、機関誌への広告掲載、研究会でのチラシ配布、メーリングリストへの投稿などにより、幅広く進めている。一方で認定取得者がメリットを感じ存在を主張するような、より強固なブランディング戦略を引き続き検討していく必要がある。ポスター・チラシの製作や、プロモーショングッズの作成・配布を進めていく。

- 2) JMLA ウェブサイトに掲載している規程などについて、更新作業のミス防止や簡素化を目指して、PDFでの提供等を検討していく。
- 3) 申請要件(中級・上級)で専門学協会活動の活動項目を必須化したことに伴い、ポイント表に関連活動の具体的な項目を増やした。協会として、さらに積極的に協会活動に加わることができるような、仕組みや事業展開が必要であると考え。
- 4) ポイント表について、ポイント数や表記内容等を整理して、実態に合うよう、またわかりやすくなるように改訂を進めていく。詳細な事例は、委員会内規として整備を進めていく。またポイント対象期間は、より多様なライフスタイルに対応できるよう、出産・育児、介護、病気、その他を想定したポイントの認定期間変更を、他の認定資格の例を参考にし、検討を進める。
- 5) 専門職能力開発プログラム案実現に向けた、体制づくりと対応が必要である。
- 6) 他の図書館関連団体が認定する認定資格や検定試験の関係者との情報交換について、さらに連携の機会がとれるよう、積極的に関わっていく。

X. 受託事業 受託事業委員会

1. 委員

担当理事 河合 富士美 (聖路加)、諏訪部 直子 (杏大医)
 委員長 河合 富士美 (聖路加)
 委員 総務会兼務

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

- (1) 委員会として会議は持たず、総務会で全体を統括した。
- (2) それぞれの事業はワーキンググループを組織するなどして活動した。

2) 診療ガイドライン作成支援—診療ガイドラインワーキンググループ

※詳細は事業別報告を参照のこと。

3) 医学中央雑誌刊行会受託事業

- (1) 米国国立医学図書館分類法 (NLMC) 日本語版作成を継続した。
- (2) 医療における情報のバリュー・スタディを開始した。

※詳細は事業別報告を参照のこと。

3. 今後の課題

- 1) 米国国立医学図書館分類法 (NLMC) 日本語版作成の完成 (3年目)。
- 2) 医療における情報のバリュー・スタディの継続。

4. 事業別報告

1) 診療ガイドラインワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 諏訪部 直子 (杏大医)
 グループ長 阿部 信一 (慈恵大)
 委員 天野 いづみ (静岡赤)、石原 千尋 (名大医)、及川 はるみ (聖路加)、柿田 憲広 (個人)、加藤 恵子 (国がん)、金田 佳子 (富大医薬)、河合 富士美 (聖路加)、川崎 かおる (岩医大)、國見 裕美 (徳

大蔵)、玄馬 寛子 (倉敷中病)、小嶋 智美 (個人)、佐藤 正恵 (個人)、高橋 奈津子 (聖隷浜)、寺澤 裕子 (個人、2015年11月から)、成田 ナツキ (個人)、堀米 拓哉 (日大歯)、満岡 侑子 (連中)、森正 智子 (昭和大)、山崎 むつみ (静岡がん)、山口 直比古 (個人)、吉野 晴美 (個人)、愛知医科大学医学情報センター (代表: 小林 晴子)、大阪市立大学学術情報総合センター医学分館 (代表: 中瀬 範子)、杏林大学医学図書館 (代表: 諏訪部 直子)、慶應義塾大学信濃町メディアセンター (代表: 舘 田鶴子)、信州大学附属図書館医学部図書館 (代表: 青木 綾乃)、東京慈恵会医科大学学術情報センター (代表: 阿部 信一)、東京女子医科大学図書館 (代表: 三浦 裕子)、東邦大学医学メディアセンター (代表: 大谷 裕)、名古屋市立大学総合情報センター川澄分館 (代表: 久田 睦美)、奈良県立医科大学附属図書館 (代表: 鈴木 孝明)、日本医科大学図書館 (代表: 渡辺 由美)、広島大学図書館霞図書館 (代表: 塚本 絢子に交代) 【下線＝リーダー】

(2) 事業報告と年間目標の達成状況

①会議の開催

- 第1回リーダー会 2015年6月19日
- 第1回WG委員会 2015年8月21日
- 第2回リーダー会 2016年1月27日

②受託状況

14学会・研究班より16ガイドラインを新規に受託した。(詳細は別紙参照)。2014年度の受託数の急増により検索を担当できる委員が不足したため、年度途中で新規受託受付を中止した。2015年11月から再開したが、2014年度よりも受託件数は減少した。

③研修会の開催

2015年8月20日～21日に文献検索講習会上級を聖路加国際大学にて開催した。29名(内、非会員2名)が受講した。

④BunKanの改良

BunKan4.1をリリースした。当面はこのまま使用する。

⑤ガイドライン受託条件のあいまいだった点を中心に見直しを行った。

⑥CQと検索式のデータベース化

協会のサーバ運用の動向を見て検討する。

⑦文献検索リストやCQ・KW・代表文献リスト等関係文書の集中管理

受託件数の増加のため未着手となった。

⑧診療ガイドライン、系統的レビュー作成に関する連絡会

システマティック・レビューや診療ガイドライン作成のための文献検索に関わりのある他団体(コクラン日本支部、Minds、EBM東京)と連絡会を定期開催した。

(3) 今後の課題

- ①今年度未着手となった2件に取り組む。
- ②診療ガイドラインワーキンググループのスキルを会員に還元する。

2) 米国国立医学図書館分類法(NLMC)日本語版作成ワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 河合 富士美 (聖路加)、諏訪部 直子 (杏大医)
グループ長 小嶋 智美 (個人)

委員 鷹野 祐子(都医学研)、橋本 郷史(東邦大医)、廣瀬 洋(埼玉大)、
滋賀医科大学附属図書館(田村 峻一、寺升 夕希)

アドバイザー 阿部 信一(慈恵大)

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

①会議の開催

第1回 2015年8月5日

第2回 2015年11月11日

第3回 2016年3月18日

②達成状況

- ・分類の翻訳作業を完了した。
- ・索引作成の検討を進めた。
- ・分類以外の部分の作業分担を決定した。

③出版の検討

2016年1月27日に出版委員長及び印刷業者と打合せを行い、版下や索引作成につき協議するとともに今後のスケジュールを確認した。

3) 医療における情報のバリュー・スタディ・ワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 河合 富士美(聖路加)、諏訪部 直子(杏大医)

グループ長 酒井 由紀子(個人)

委員 佐藤 正恵(個人)

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

①委員会の開催

第1回 2015年7月3日

第2回 2015年8月19日

第3回 2015年8月26日

第4回 2016年1月22日

第5回 2016年3月22日

②研究体制の確立

ワーキンググループ長、公募による委員1名と研究協力者1名、計3名による体制を整え、研究活動を開始した

③研究計画と倫理審査

- ・米国の先行研究の資料にもとづき日本語の設問と文書の準備を行った
- ・研究計画について慶應義塾大学文学部のピアレビューを経て、同学部の研究倫理審査委員会に申請書類を提出し、10月21日に承認を得た。

④第1期参加協力病院の募集

- ・第1期参加協力病院を募集し、2病院の申請を受理した。
- ・2病院での調査実施を決定し、「調査実施確認書」「参加協力病院ハンドブック」を送付した。

⑤第1期調査の実施

- ・2月～3月に約1ヶ月間のウェブアンケート調査を実施し、計241件の有効回答を得た。
- ・3月中旬にインタビュー調査を実施し、計14名の参加協力を得た。
- ・結果の概要を参加協力病院に送付した。

(3) その他の報告事項

①第1回学術集会(2016年5月27日)のJMLA-CEの依頼を受け、「医療におけ

2015年度受託事業 診療ガイドライン一覧

ガイドライン名		学会		検索担当者		委員会出席		備考
GL1501	てんかん診療ガイドライン 改訂版	日本神経学会		成田(個人)、佐藤(個人)、リーダー：山口	2015.03.29 東京(諏訪部)			
GL1502	認知症診療ガイドライン	日本神経学会		慈恵大、リーダー：阿部	2015.02.11 東京(阿部) 2015.07.26 東京(大崎) 2015.09.23 東京(阿部)			
GL1503	自己免疫疾患に関する調査研究「シェーグレン症候群・成人スチル病」	厚生労働科学研究費補助金		東女医大、杏林/リーダー：諏訪部				
GL1504	低出生体重児における消化管機能障害の診療指針	大阪大学大学院医学系研究科		吉野(個人)、リーダー：河合	2015.09.13 新大阪(河合、吉野)、 2015.12.19 新大阪(河合、吉野)			
GL1505	食道癌診療ガイドライン	日本食道学会		慶大医、堀米(日大歯)、リーダー：河合				
GL1506	前立腺がん診療ガイドライン改訂	日本泌尿器科学会		奈医大、中瀬(阪市大)、國見(徳大職)、寺升(滋医大)、寺澤(個人)、藤原(個人)、リーダー：鈴木				
GL1507	進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症診療ガイドライン	厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業) 神経変性疾患領域における基盤的調査研究班		慈恵大、リーダー：阿部				
GL1508	子宮頸癌診療ガイドライン改訂	日本婦人科腫瘍学会		山崎(静岡がん)、慈恵大、慶大医、堀米(日大歯)、リーダー：阿部	2015.10.07 東京(阿部)、 2015.10.29 京都(阿部)、 2015.12.04 東京(阿部)			
GL1509	脊髄小脳変性症/多系統萎縮症診療ガイドライン	日本神経学会		森正(昭和医大)、溝岡(連中)、川崎(岩医大)、渡辺(日医大中)、高橋(聖隷浜)、寺澤(個人)、成田(個人)、リーダー：山口	2015.07.31 東京(阿部)、 2016.01.07 東京(山口)			
GL1510	小児呼吸器形成異常・低形成疾患に関する実態調査ならびに診療ガイドライン作成に関する研究班	厚労科研難治性疾患等政策研究事業		慈恵大、名市大川澄、広大霞、リーダー：阿部				
GL1511	ドライアイ診療ガイドライン	ドライアイ研究会		慈恵大、愛医大、阿部潤也(黄歯大)、リーダー：阿部	2015.10.08 千葉(東歯大阿部潤也、阿部)、2015.12.01(阿部)			
GL1512	顎顔面補綴診療ガイドライン 改訂版	日本顎顔面補綴学会		慈恵大、リーダー：阿部				
GL1513	難治性腎疾患4疾患(IGA腎症、急速進行性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、多発性嚢胞腎)に関する診療ガイドライン改訂	新潟大学医学系 腎・膠原病内科 成田一衛		調整中				
GL1514	がん免疫療法ガイドライン	日本臨床腫瘍学会		調整中、リーダー：山口	2016.04.03 東京(山口)			
GL1515	小児思春期、若年がん患者の妊孕性温存に関するガイドライン	日本癌治療学会		慈恵大、リーダー：阿部	2015.10.30 京都(阿部)、 2016.01.16 東京(阿部)			
GL1516	小児けいれん重積治療ガイドライン	日本小児神経学会		慈恵大、リーダー：阿部				

る情報の価値とは何か：バリュー・スタディへの招待」の題目で関連の講演を行うこととなった。

②第2期調査の参加協力病院を得るために、早めに打診や個別の広報を行うこととした。

(4) 今後の課題

①第1期調査の報告・発表の準備と実施

②第2期調査の準備と実施

③外部の報告・発表先の選定と準備

XI. 協会賞・奨励賞選考 協会賞・奨励賞選考委員会

1. 委員

担当理事 酒井 由紀子（個人）

委員長 野坂 美恵子（東医大）

委員 石井 保志（東医歯大）、今泉 千代（日看協）、野口 真理子（東大医）、
南 泰樹（聖マ医）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 2016年2月9日

2) 2015年度協会賞・奨励賞の選考

(1) 広報

会員による応募を促進するために、候補募集についてホームページに文書を掲載し、『医学図書館』誌および協会メーリングリストによる広報活動を行った。

(2) 協会賞・奨励賞候補業績の選考

第1回委員会で候補業績を選考し、理事会に報告を行った。

3) 奨励賞の対象についての提案

近年『医学図書館』はじめ、研究論文の投稿数が少なくなっている。奨励賞の対象が論文に限定されているため、選考が難しい現状である。次年度以降、奨励賞の対象を論文以外にも広げるよう理事会に提案し、承認された。この内容を反映した規程改訂案を作成し、組織・制度委員会に点検を依頼した。

3. 今後の課題

1) 改訂規程にもとづく奨励賞の選考

奨励賞の選考にあたっては、規程改訂が済んだら対象を拡大して選考にあたる。

XII. 国際交流 国際交流委員会

1. 委員

担当理事 諏訪部 直子（杏大医）

委員長 佐藤 晋巨（聖路加）

委員 玄馬 寛子（倉敷中病）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 2015年7月31日

第2回 2016年1月15日

2) 米国医学図書館協会（以下、MLA）との連携

(1) 2015年5月15日～20日開催のMLA'15にJMLA公式代表出席

テキサス州オースティンで開催されたMLA'15へ諏訪部理事がJMLA公式代表として出席。International Cooperation Section(以下、ICS)ビジネスミーティングに出席したほか、ICS企画のオープンフォーラム”Around the World in Sixty Minutes”でパネリストとして日本の図書館、サービス、新たなチャレンジと機会についての発表及

び質疑応答を行った。

(2) MLA 参加促進キャンペーンの実施

会員の MLA 参加を促進するため、「MLA へ行こうキャンペーン」展示を 2015 年総会（2015 年 5 月 28 日～29 日）で実施した。

(3) 米国医学図書館協会 2016 年次大会 国際交流派遣者の公募

2016 年 5 月 13 日～18 日にカナダのトロント市で開催される米国医学図書館協会の年次総会（以下、MLA'16）に参加し、他国の図書館員等と国際交流を行い、医学図書館員としての知見を広げるとともに、将来、日本医学図書館協会（以下、本会）と米国医学図書館協会（以下、MLA）の間の交流に貢献できる会員を育成することを目的に国際交流派遣者 1 名を公募した。

(4) 相互に出版物を交換

MLA との 2 者協定に基づき出版物を送付した。

(5) 図書館見学希望の窓口

MLA 会員より関西地区の医学図書館見学希望の問い合わせがあり、MLA の 2 者協定に基づき見学先の紹介を行った。関西医科大学にご協力いただいた。

3) 韓国医学図書館協議会（以下、KMLA）との連携

(1) 2015 年度第 86 回 JMLA 総会へ来賓 2 名を招聘

分科会 A「図書館再生」での講演、会員館図書館（帝京大学、聖路加国際大学）の見学を行った。

(2) 日本医学図書館協会及び韓国医学図書館協議会間における二者協定を締結

(3) 2015 年度 KMLA 秋季学術大会へ理事と会員の 2 名を派遣

開催日時：2015 年 10 月 15 日(木)～16 日(金)

派遣者

磯野 威 理事（個人）は開会式にて挨拶を行った。

加藤 砂織（教育・研究委員会委員長、東京女子医科大学図書館）は「研究業績データベース管理業務と図書館員の役割」を発表した。

(4) 日本図書館見学ツアーを KMLA へ提案

2014 年度に実施した韓国図書館見学ツアーの交換となる日本図書館見学ツアーを企画し、KMLA へ提案した。KMLA の希望により開催時期は 2016 年 11 月の図書館総合展開催期間に合わせることとなった。

(5) 2016 年度第 87 回 JMLA 総会へ KMLA 会員 2 名の招聘の準備を開始

(6) 図書館見学希望の窓口

KMLA 会員より日本の医学図書館の見学希望があり、2 者協定により見学先の紹介を行った。磯野理事の案内により、東京女子医科大学、東京医科大学に協力いただいた。

4) 英語ホームページ更新

海外の図書館員を対象に、協会の活動を広報するための英語ホームページの更新を行った。

3. その他の報告事項

1) HTAi(Health Technology Assessment International)より、東京で 2016 年 5 月 10 日～14 日に開催する Annual Meeting について協力依頼があり連絡窓口となった。

4. 今後の課題

1) KMLA との連携

- 2) MLA との連携
- 3) 国際交流委員会の業務内容について覚え書きの更新
- 4) 英語での情報発信及びその支援
- 5) 海外の図書館員および関連団体から協会への問い合わせへの対応
- 6) 会議開催方法の検討
- 7) MLA、KMLA との相互協定について会員に周知を図る

XIII. 組織・制度 組織・制度委員会

1. 委員

- 担当理事 村上 健治（個人）
 委員長 尾崎 聖太郎（麻布大）
 委員 加藤 恵子（国がん）、新谷 知之（東海大伊）、土佐 智義（個人）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

- 第1回 2015年7月7日
 第2回 2015年8月27日
 第3回 2015年11月27日
 第4回 2016年1月25日

2) 規程、細則等の審議

以下の規程等の改正案を作成し、理事会に提出した。各改正案は、理事会で審議・承認の後、施行した。

「教育・研究委員会内規」「雑誌委員会内規」「教育・研究規程」「地区会に関する細則」「部会に関する内規」（2015年8月1日施行）

「教育・研究規程」「委員会規程」「謝金に関する内規」（2015年10月23日施行）

「中央事務局規程」「協会賞・奨励賞授与取扱い規程」「海外からの来賓・講師等招請助成費給付規程」（2016年2月18日施行）

3) 要覧及びホームページ掲載事項の調整

要覧及びホームページの双方に掲載されている事項の一部に内容の更新漏れがあったことについて対応を検討し、要覧に掲載されている内容は、別途ホームページを作成するのではなく、要覧の該当ページを参照することにした。

4) 表記基準の作成と周知

「本会作成文書類の表記基準」を作成し、要覧に掲載することで周知した。

5) 用語の統一

規程等に使われる用語の統一について検討し、修正候補を選定した。

6) 規程等全般にわたる整合性の確認・体系化

規程等の全般にわたる整合性を確認するため、課題を抽出した。

3. 今後の課題

- 1) 規程等の改正及び制定
- 2) 用語の統一
- 3) 規程全般にわたる整合性の確認・体系化

XIV. 部会 病院部会

1. 幹事

奥出 麻里 (千葉 MC) 連絡責任者

泉 峰子 (科学院)、加藤 恵子 (国がん)、玄馬 寛子 (倉敷中病)、佐藤 正恵 (個人)、
満岡 侑子 (連中)、安田 多香子 (愛知がん)

2. 活動報告と年間目標の達成状況

1) 幹事会の開催

第 1 回 2016 年 2 月 18 日

2) 病院部会定例会

第 86 回総会分科会において定例会を開催した。参加者は会員 17 名。

3) 見学会

2016 年 2 月 18 日に国立成育医療研究センターの見学会を開催した。参加者 35 名 (会員 29 名、非会員 6 名)。

4) 雑誌委員会との意見交換会

2015 年 5 月 1 日に聖路加国際大学にて、第 1 回雑誌委員会/病院部会意見交換会を開催し、幹事が出席した。